

「2010年度版 今日の一問」 (やまだ塾)

(2010年4月15日掲載)

No.1	「医師確保対策」の課題と政府の取組みを示せ。
解答	<p>(1) 現状認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本では、医療の高度化、高齢者の増加等による医療全体のニーズの伸びに、医師数の増加が追いついていない。また、人口当たり医師数がOECD平均を下回っており、医師の絶対数が不足していることが指摘されている。また、僻地等の地域における偏在、救急・産科を始めとした診療科における偏在が生じており、さらに特に病院の医師が夜勤・当直などで疲弊し、厳しい勤務環境となっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師数は、1998年24.9万人、2008年28.7万人である。 ・ 医師数は、毎年3,500～4,500人程度の増加が見込まれている。 ・ 2007年人口1000人当たり臨床医数は、OECD平均2.6人、日本2.1人である。 <p>(2) 課題</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 医師の診療科偏在 <ul style="list-style-type: none"> ・産科、救急など特定の診療科の医師が不足している。 ② 医師の地域偏在 <ul style="list-style-type: none"> ・対人口比でみても、全国的に大都市に医師が集中し、周辺地域や僻地で医師が不足している。 ③ 病院勤務医の過重労働 <ul style="list-style-type: none"> ・病院の医師が夜勤・当直などで疲弊し、病院の医師不足に拍車をかけている。 <p>(3) 政府の取組み</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 医師養成数の増員 <ul style="list-style-type: none"> ・2009年度の医学部1学年定員は過去最大規模(8,486名)まで増員されたが、2010年度はさらに360名が増員される予定 ② 救急、産科医療、僻地等の医師不足地域など、地域医療に従事する医師の支援等 <ul style="list-style-type: none"> ・救急、分娩、新生児医療を担う勤務医等の手当への財政支援(新規:新生児担当医手当) ・産科を希望する後期研修医の手当への財政支援 ・地域への医師派遣に協力する医療機関への財政支援等 ③ 病院勤務医の勤務環境の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・女性医師の復職支援、院内保育所の整備等 ・チーム医療推進の検討(「チーム医療の推進に関する検討会」)

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2010 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

	<p>④ 地域医療再生基金による支援(2009年度第1次補正予算分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県が策定する地域医療再生計画に基づく地域の医師確保等の取組みを支援 <p>⑤ 臨床研修制度の見直し等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療科偏在・地域偏在を是正しながら良質な医師を養成するため、臨床研修制度を見直し、2010年度から実施(文部科学省と厚生労働省が連携) <p>(4) 2010年度予算(主な事業)</p> <p>① 救急、産科医療等を担う勤務医等の手当への財政支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 救急勤務医支援事業(救急勤務医手当):21億円 2) 産科医療等確保支援事業(分娩手当等):22億円 3) 新生児医療担当確保支援事業(新生児担当医手当<新規>):1億円 <p>② 地域への医師派遣に協力する医療機関への財政支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)医師不足地域における臨床研修の実施経費:11億円
--	---

(参考:全国厚生労働関係部局長会議資料 等)